

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

(仮)東白島町ビル

CASBEE 広島 2016年版

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

欄に数値またはコメントを記入

配慮項目	評価点	重み係数	内 訳				
■1.「地球温暖化対策」の推進							
1.1 建物の熱負荷抑制							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.61	Q1 室内環境	2 温熱環境	2.1 室温制御	2 外皮性能	
	3.0	0.39	LR1 エネルギー	1 建物外皮の熱負荷抑制			
小計	3.0	0.26					
1.2 自然エネルギーの利用							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	0.0	0.00	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用			
小計	0.0	0.00					
1.3 設備システムの高効率化							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。LED照明を採用し設備の高効率化を考慮している。	5.0	1.00	LR1 エネルギー	3 設備システムの高効率化			
小計	5.0	0.25					
1.4 設備システムの効率的運用							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	0.0	0.00	LR1 エネルギー	4 効率的運用	集合住宅以外の評価	4.1 モニタリング	
	0.0	0.00	LR1 エネルギー	4 効率的運用	集合住宅以外の評価	4.2 運用管理体制	
	3.0	0.50	LR1 エネルギー	4 効率的運用	集合住宅の評価	4.1 モニタリング	
	3.0	0.50	LR1 エネルギー	4 効率的運用	集合住宅の評価	4.2 運用管理体制	
小計	3.0	0.10					
1.5 資源・マテリアル対策							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。躯体と仕上がり材が容易に分別ができる建材を使用している。(LGS下地)	1.0	0.10	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.1 節水		
	3.0	0.11	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水等の利用	1 雨水利用システム導入の有無	
	3.0	0.05	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水等の利用	2 雑排水等利用システム導入の有無	
	3.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減		
	3.0	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.2 既存建築躯体等の継続使用		
	3.0	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		
	1.0	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
	2.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.5 持続可能な森林から産出された木材		
	4.0	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		
小計	2.6	0.27					
1.6 ライフサイクルCO2排出率							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。LCCO2の排出率 69%	4.2	1.00	LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮			
小計	4.2	0.11					
1.「地球温暖化対策」の推進の評価							
	3.5	0.71					
■2.「ヒートアイランド対策」の推進							
2.1 温熱環境の向上							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	1.0	0.49	Q3 室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出			
	3.0	0.24	Q3 室外環境(敷地内)	3 地域性・アメニティへの配慮	3.2 敷地内温熱環境の向上		
	3.0	0.27	敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.2 温熱環境悪化の改善		
小計	2.0	0.96					
2.2 交通負荷抑制							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	2.0	1.00	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.3 地域インフラへの負荷抑制	3 交通負荷抑制	
小計	2.0	0.04					
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価							
	2.0	0.16					
■3.「長寿命化対策」の推進							
3.1 耐用性の向上							
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。耐震性や補修の必須間隔に考慮し耐用性の向上に図っている。耐用性の高い材料を使用している。	3.0	0.50	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震・制震・制振	1 耐震性(建物のこわれにくさ)	
	3.0	0.13	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震・制震・制振	2 免震・制震・制振性能	
	3.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	1 躯体材料の耐用年数	
	5.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	
	2.0	0.04	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
	3.0	0.04	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	4 空調換気ダクトの更新必要間隔	
	5.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	5 空調・給排水配管の更新必要間隔	
	2.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	6 主要設備機器の更新必要間隔	
小計	3.2	0.44					
3.2 設備の更新性							
(コメント) ※設計の計画段階に配慮した事項を記載してください。	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性	
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	2 給排水管の更新性	
	3.0	0.10	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	3 電気配線の更新性	
	3.0	0.10	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	4 通信配線の更新性	
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	5 設備機器の更新性	
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	6 バックアップスペースの確保	
小計	3.0	0.56					
3.「長寿命化対策」の推進の評価							
	3.1	0.13					
■重点項目の総平均(上記3項目)							
	3.2						